

# ヒマラヤ保全協会 2006 年度 事業報告

## 1. 生活林づくり（新プロジェクト）



**森林委員会のメンバー（サリジャ村）** ヒマラヤ保全協会は、パルバット郡サリジャ村において「生活林づくりプロジェクト」をおこなっています。将来的に、現地住民が自立的継続的に生活林づくりができるように、住民による森林委員会を結成し、住民が主体になった事業をすすめています。

新プロジェクト地、パルバット郡サリジャ村およびミヤグディ郡ナルチャン村において、生活林づくりプロジェクト第1フェーズを終了し、第2フェーズ（生産能力・生計向上計画）を開始しました。日本からは専門家を派遣し、調査・指導・評価をおこないました。

ナルチャン村・サリジャ村の2カ村で、合計約1万6千本の苗木を生産し、植樹しました。

第2フェーズでは、イラクサから生地を、ロクタ（ミツマタの一種）から紙を生産し、地域や住民の収入を向上させる計画を立案し、着手しました。

### <村人の声>

「ヒマラヤ保全協会との出会いは本当にうれしいことです」

「ヒマラヤ保全協会の皆さんに支援していただき大変感謝しています。ありがとうございます」

「今年は2万本の植樹をします」

「製紙にしろ織物にしろ、元々ネパールにあった技術を生かし発展させるプロジェクトであり、私たちの能力を伸ばすことができます」

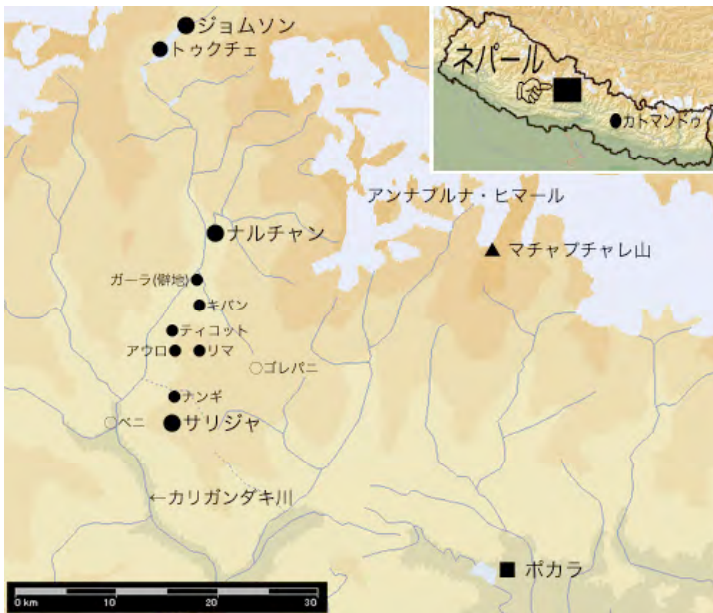
「私たちの村には今まで産業もなく貧しかったですが、これで希望が見えてきました」



**イラクサの樹皮** 生活林づくりプロジェクトでは、森林資源を有効に利用し、地域や住民の収入を向上させることもめざしています。写真は、イラクサの樹皮であり、これをボイルして繊維をとりだし、糸をつくります。



**イラクサの樹皮からとられた繊維** 写真は、イラクサの樹皮からとられた繊維です。これをつむいで糸にします。



**事業地の位置図** 既存事業地である「キバン-ナンギ地域」からは徐々に撤退し（2007年度末をもって支援を終了します）、その南部の「サリジャ地域」および北部の「ナルチャン地域」、カリガンダキ川流域においてあらたな事業を展開しています。

「女性が参画できることは非常に画期的なことです」

「森林を保全しつつ森林を利用し、地域を活性化させることはまったくはじめての試みです。かならず成功させます」

「ヒマラヤ保全協会の皆さんも私たちの村に是非いらしてください」

## 2. 森林保全 (キバン-ナンギ地域)

ミヤグディ郡キバン村・ティコット村・アウラ村・ナンギ村において、のべ約5万7千本の苗木をそだて、約2万9千本を植樹しました。また、家畜から木をまもるためのフェンシングをおこないました。

## 3. 生活廃棄物処理

ネパールでは、ライフスタイルの変化により、様々な生活廃棄物（ゴミ）が多量に廃棄されるようになりました。そこで、パルパット郡サリジャ村およびオカレニ村でゴミ箱を作成し、ゴミ集積場を建設しました。また、住民を対象に、生活廃棄物処理のワークショップを開催しました。参加者は47人でした。



**学校に設置されたゴミ箱と生徒たち** ネパールでは、ゴミが大量に廃棄されるようになり、あちらこちらに、ラーメンやビスケットのビニール袋がちらかっています。そこで、学校にもゴミ箱（緑色の缶）を設置し、生徒たちに、ゴミはゴミ箱にすてるように指導しました。写真はオカレニ村に設置したゴミ箱とそこの小学生たちです。

## 4. 上水道建設

ガーラ村およびリマ村の僻地集落に上水道を建設し、のべ約800人の人々に衛生的な水道水を供給できるようにしました。これにより、住民の水くみに要する労働がなくなるとともに、住民は病気にもかかりにくくなりました。

## 5. チベット文化保全

ネパール国内に居住するチベット民族および彼らのコミュニティにおいて、近年、母語であるチベット語や固有の伝統文化が急速にうしなわれつつあります。そこで、2006年12月16日～2007年1月14日に、ムスタン郡ジョムソンで、子供たちを対

象にしたチベット語および伝統文化教育のプログラムを実施しました。参加者は19人でした。

## 6. 教育支援・保健衛生

めぐまれない子供たち34人（6～12年生）に奨学金（一人あたり600～2,000ルピー）を支給しました。

トゥクチェ村（タカリー族の村）の学校に理科教材・実験用具を支給しました。

若い人々を対象に、HIV/AIDS保健衛生ワークショップを開催しました。参加者は23人でした。

# ヒマラヤ保全協会 2007年度事業計画

## 1. ネパール現地・重点事業

### 1-1. 生活林づくりプロジェクト

#### -第2フェーズ（生産能力・生計向上計画）-

<<< 第2フェーズのポイント >>>

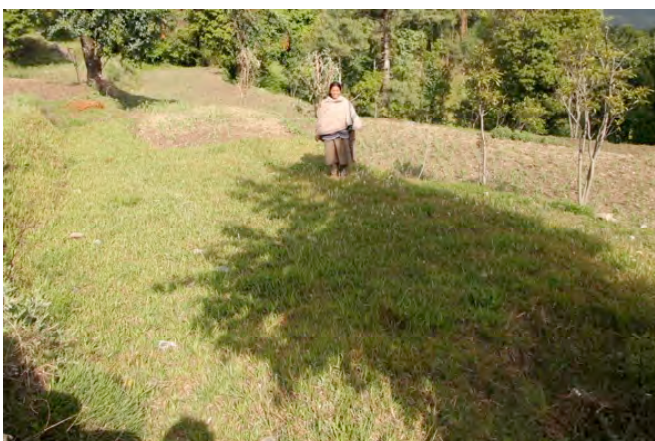
- (1) 新プロジェクト地において植林を本格的にすすめます（目標2万1千本）。
- (2) 森林資源を有効に活用しながら住民の生活を改善し、環境調和型の社会開発をめざします。
- (3) ヒマラヤ本来の自然林（原生林）を保全します。

ネパール西部のパルパット郡およびミャグディ郡の新プロジェクト地（サリジャ村・ナルチャン村）において、自然環境を保全しながら、住民の生活改善をすすめ、地域社会を活性化させることを目的として、2005年に建設した苗畑の苗木生産能力を向上させ、植林地への植樹を本格化させるとともに、森林資源を利用して、紙および生地を生産する加工施設を建設し、住民の生計向上計画をすすめます。

サリジャ村では、イラクサの樹皮から繊維をとりだし、糸をつむいで、生地を生産する加工施設（イラクサ加工施設）を建設します。写真（右）はその建設現場です。



**糸をつむぐガンマヤさん** ガンマヤさんが、イラクサの樹皮からとった繊維から糸をつむいでいるところです。ガンマヤさんは言います「村の女性は、技術はそれなりに持っているのですが、このような作業ができる場所がありません。ヒマラヤ保全協会がご支援くださるといことで、女性たちは大よるこびで、またとても期待しています。村の女性に光をあてる今回のようなプロジェクトは初めてです」



**イラクサ加工施設建設現場** 人物は、生活林づくり委員会のメンバーの一人、ガンマヤさんです。このプロジェクトでは女性が中心的な役割をにないます。

## 1-2. エコ・プログラム -生活廃棄物処理・観光ルート美化-

ネパール西部のミャグディ郡のトレッキングルートにおいて、ゴミ箱およびゴミ集積場を建設し、環境教育を実施することにより、地域の環境保全と観光地美化をすすめ、地域の環境と住民の健康をまもるとともに、観光資源の破壊をくいとめ、環境調和型の観光開発をめざします。キーワードは「環境」と「観光」であり、ヒマラヤ保全協会の「エコ・プログラム」として今後継続的にとりくんでいきます。

## 2. ネパール現地・その他の事業



崖崩れ現場で対策工事をする村人 崖崩れをこのまま放置すると大災害になります。対策工事がいそがれます。

### 2-1. 緊急支援：アウラ村・崖崩れ対策

ミャグディ郡アウラ村では、集落の直上で崖崩れがおこり、村に大きな危険がせまっています。防護策建設などの対策工事が必要であるので、緊急支援をおこないます。

### 2-2. キバン-ナンギ地域の苗畑をハンドオーバー -支援終了-

11年間にわたって支援をつづけてきた、キバン-ナンギ地域（キバン村・ティコット村・アウラ村・ナンギ村）の苗畑を、2007年度末をもって村にハンドオーバーし、支援を終了します。今後は、村が自立的継続的に苗畑を運営し、森林保全活動をつづけていきます。

### 2-3. チベット文化保全 -第2フェーズ-

ネパール国内のチベット人には、彼らの母語であるチベット語の教育の機会がなく、チベット語やチベット文化は急速にうしなわれつつあります。そこで、チベット人のために、昨年ひきつづき、チベット語教育、チベット文化保全プログラムを実施します。

### 2-4. 教育支援・保健衛生

ネパールのめぐまれない子供たち53人に奨学金を支給します。

ナルチャン村の学校に、机と椅子（60組）を製作するための支援をします。

15～30歳の人々を対象に、HIV/AIDS保健衛生プログラムを実施します。

### 特定非営利活動法人ヒマラヤ保全協会 2006年度事業報告&2007年度事業計画

2007年7月7日発行

編集・発行所 特定非営利活動法人ヒマラヤ保全協会

〒151-0053 東京都渋谷区代々木3-5-7 シグマロイヤルハイツ403

TEL/FAX:03-5350-8458 E-mail: ihc\_jpn@ybb.ne.jp <http://www.ihc-japan.org/>